

## 適正施設ガイドライン

【キリン *Giraffa camelopardalis*】

2021年4月

公益社団法人日本動物園水族館協会

## 1 飼育環境

キリンは北海道から沖縄まで全国で飼育されており、比較的環境に適応する能力を有する動物だが、寒さに弱いため、特に温度を適切に管理することが重要である。また、特有な体形から起こる事故を防ぐため、構造物は適切に作らなければならない。

### 1-1 温度・湿度・換気

#### 1) 屋外

一般的にキリンは比較的暑さに強い。猛暑日（35℃以上）でも高い樹木や日射しを遮るものなど、日陰で過ごす場所があればそれほど心配する必要はない。しかし、寒さには弱いため、外気温が10℃以下の場合は、室内清掃時のみ外へ出すなど、屋外での滞在時間をなるべく短くする必要がある。特に9か月齢以下の幼獣や妊娠個体については雨や風などの気象条件も加わるとより一層気温に対する配慮が必要である。湿度は特に考慮する必要はないと思われる。

#### 2) 屋内

冬季においても最低室温は15℃以上を保つようにするのが望ましい。熱源は各種あるが、室内の空気を汚さない配慮が必要である。また、床暖房は蹄を乾燥させ、アンモニアの蒸発が増加するため推奨しない。キリンの部屋は床部分と天井部分で温度差が生じるため、サーキュレーターなどを使用し、暖房時に上下の温度差が生じないように攪拌できるようにするべきである。また、隙間風はないほうが良いが、十分換気できるのが望ましい。冬季中、外気温と室内の温度差が大きい場合、外へ出す前に換気を行い、サーキュレーターなどを使用し、外気に慣れさせ温度差を小さくしてから外へ出すべきである。

### 1-2 照明（日照、照明時間など）

照明は照度調整やタイマーなどで昼夜サイクルが可能なものが望ましい。屋外を見られる採光窓があると終日収容の場合でも、キリンは興味深く外を見ることができる。

### 1-3 音、振動

キリンは新しい音や振動（発電機や工事の騒音、振動）に対して最初は警戒するものの、時間をかけて慣らすことができる。定期的実施する草刈り（刈払機）やブロアーなどの使用時は、音よりも普段立ち入らない場所に人がいることの方がキリンを驚かせる。搬出入の際、キリンは通常よりかなり緊張した状態になるため、音や振動は極力避けた方が良い。

### 1-4 面積、容積

キリンは背が高く、比較的良好に歩く動物であるため、十分な広さと高さが求められる。また、寝室はしっかりと休める空間を確保し、それとは別に出産や検疫、搬出入などに対応する部屋を設ける必要がある。

#### 1) 屋内

各部屋の広さは、個別で飼育（収容）する場合、キリン1頭当たり25㎡以上あるのが望ましい。小さな繁殖群（オス1頭メス2頭）で飼育する場合は50㎡以上必要で、飼育頭数が4頭以上となる場合は、1頭増えるごとにさらに10㎡の広さが必要となる。また、オスを隔離できるような仕切りや小部屋を設けるべきである。威嚇的な個体が、同居する他個体を追い込む可能性のある袋小路ができないよう注意する必要がある。天井の高さはシーリングファンや換気扇などを考慮して最低6.5m以上あればよい。

#### 2) 屋外

放飼場の広さは1,200㎡あるのが望ましい。また、放飼場の短径は最低でも25mは必要である。主となる放飼場の隣に飼育係や動物用の1つ以上の小放飼場（500㎡）を設け

ると、一時的にキリンを分離、隔離することやハズバンドリートレーニング、治療などを実施することができる。

#### 1-5 構造、設備（床材、仕切り、プール、給餌器等）

キリンの健康や福祉を担保するのは、放飼場の広さや寝室の大きさだけではなく、事故やケガを防止するよう注意深く考えられた構造や設備によるところも大きく関係する。（※各自治体が定める動物愛護管理法の特定動物の飼養基準がある場合は、その基準に準拠すること）

##### 1) 屋内

###### ① 床材、仕切

各部屋の仕切りは少なくとも高さ3.5mとすべきである。外へ出るための扉は高さ4.5m、幅1.5mは必要で、なるべく隙間風が入らないようにすべきである。また、扉は外が覗けるように上部には窓を設けるのが望ましい。産室はこどもの蹄が挟まれないよう蹄が届く範囲の床と扉の隙間や柵の間隔などは5cm以下とし、こどもの頭が入らないよう頭が届く範囲の仕切り柵などの隙間は10cm以下となるよう特に注意しなければならない。床材は動物福祉の観点からすると土や砂（厚さ10cm以上）などを使用した方がよく、滑ることによるケガなどのリスクも減り、座って休むのにも適しているが、多頭飼育の場合は衛生状態を保つのが難しい。コンクリートを使用する場合は、コンクリートの上に十分な量のワラやチップなどを敷き、関節を保護する必要がある。また、コンクリートは衛生面の管理が容易である反面、滑りやすいため、ケガや事故の原因となりうる。対策として床面を玉砂利洗い出し仕上げにする、または格子状の溝を作るなどして滑りづらくすることを推奨する。

###### ② エサ箱

適切な姿勢が取れる高さ（3m～4m）に設置すべきである。また、エサ箱に届かない幼獣用に低い位置にも設置しなければならない。

###### ③ 給水器

常に新鮮な水が飲めるようにする。自動給水が望ましい。

###### ④ 体重計

健康管理上、設置するのが望ましい。通路などに常設する場合は、最低でも幅1.2m、長さ2.5m以上の板状のもので、滑らない材質のものにしなければならない。可搬式車両重量計も可。

###### ⑤ 来園者通路

キリンが驚かないように適切な距離を設け、キリンが来園者を見渡せるようにするのが望ましい。また、遮音や冬季の暖房効率を上げるためにガラスで仕切るのが望ましい。

##### 2) 屋外

###### ① 放飼場の囲い材

金網、丸太、ワイヤー、壁などどの材でも頑丈であれば問題ない。電柵のみでは脱柵を防止できないため、ほかの手段と組み合わせて使用すべきである。高さは最低でも3.0mは必要である。柱や木を使用する場合は、有毒なものを使うべきではない。また、柵の最下部はキリンが座ったときに蹄が入る隙間は作らず、それより上部は頭が抜け出せるよう50cm以上の間隔が必要である。

###### ② 堀

観覧通路との境界として空堀を用いる場合は、人止め柵と合わせて少なくとも3mの深さが必要である。動物側の堀は25℃を超えない斜度のスロープ式モートにし、その

表面は滑らない足場が必要である。垂直な壁のあるUモート式は、例え低いものであっても危険であるため止めるべきである。水堀が境界としては有効であるが、キリンが転落して溺れる、または肢を滑らせ開脚する恐れがあるため、擬岩や柵などを併用して設置するのが望ましい。

③ 給餌

キリンの運動を促すために離れた場所にいくつか給餌場所を設けるのが望ましい。粗飼料は自由採食できるようにしておく。大きな枝を付けられる柱などがあるのが望ましい。

④ 水飲み

容器は高さ 50 cmに満たない低いものであっても良いが、成獣に壊されないよう頑丈なものでなければならない。新鮮な水を保つようにすること。

⑤ 日よけ・風よけ・雨よけ

強烈な日差しや寒風及び雨を防ぐような木や小屋があるのが望ましい。高さは5m以上必要で、角や首を挟まない構造でなければならない。

⑥ プール（ため池）

推奨はしない。転落の恐れや転落後に滑って肢が開いてしまう危険がある。

⑦ トラックや重機の通路

放飼場整備（整地や除雪など）、死体搬出、施設管理のため屋外施設にはトラックや重機の出入り口が少なくとも1ヶ所なくてはならない。

## 参考文献

・EAZA Giraffe EEPs (2006) : EAZA Husbandry and Management Guidelines for *Giraffa camelopardalis*. Burgers' Zoo, Arnhem.

・キリン繁殖検討委員会訳 (2010) : キリン EAZA 飼育管理ガイドライン. 社団法人日本動物園水族館協会